

ネット 漂流

狙われた子どもたち

Vol.51



幼児向け YouTube kidsの影響

N-I-T情報技術推進ネットワーク株式会社
篠原嘉一（しのはら・かいち）

子どもたちのYouTube人気は相変わらず続いている。ユーチューバーになりたいという子どもも年々低年齢化し、小学生では低学年の間で増えてきている。ユーチューブが普及する背景にテレビがネットに対応し、ユーチューブ等の動画配信サービス機能を標準搭載したことも起因している。これまでのスマホやタブレットの画面サイズから、はるかに大きなテレビでの視聴は、テレビ離れしていた世代を振り向かせている。

しかし、これまでのユーチューブアプリや、パソコンでの視聴は過激な内容や、見たくない個人的な投稿動画まで見えてしまう。クリックして再生すると、お勧めとしてたびたびリストアップされてしまう。問題のない動画だけを選ぶことは難しく、子どもだけで使用しているときなどは、どうしても心配な状況は避けられなかった。そこで、日本でも5月31日から、5歳児までを対象にした「ユーチューブキッズ」がスタートした。このアプリは、子ども向けの動画だけを表示し、保護者の設定により検索機能をロックす

ることもできる。タイマー機能やフィルター機能などで小さな子どもが、どんなクリックしてしまっても、危険な動画が出にくい仕組みになっている。

*アプリのデザインも子ども向けで、操作ボタンも大きい。

*子どもにもふさわしくない動画が表示されない。

*「アニメ、ドラマ」「おんがく」「まなぶ」「はっけ

ん」などのジャンル分け。

*時間を制限できるタイマー機能。

*広告の表示が出ない（今のところ公式？な広告程度）。

初期の設定方法も簡単で、保護者の設定も行いやすい仕様になっている。これまでのユーチューブアプリと比べても、安心して子どもに提供できる環境になっている。しかし、人気のヒカキンやタレントも公式として視聴できる。「ユーチューバーになりたい！」と言い始める年齢がより早くなのだろうか。なにより、「まなぶ」のジャンルでは絵本が多くあり、読み聞かせをしてくれる。イラストのタッチは絵本そのものだが、

親が読み聞かせをしてくれる絵本とは違う。上手に読んでくれるが、これでいいのだろうか。与える側の保護者が、絵本の読み聞かせをすることをおろそかにしてしまわないだろうか。

ユーチューブとしての機能は大変優れていて、これで安心して幼い子どもたちにも動画サイトを見せられるのだが、子育ての誤解が起きはしないだろうか。デジタル時代だからこそ、幼い時の「不体験」と、使わない我慢の訓練が必要なのだ。

公共の場所や、家事の忙しい時に、子どもに動画を見せることで親の負担は軽減できる。しかし、就寝前など、親が子どもにも読み聞かせをする声は、大切な愛情表現なのだから、ユーチューブに任せてはいけない。1時間以内で我慢する訓練。親も子どもと居るときは、極力スマホを触らない我慢。子育てとスマホの機能は分けて考えなければ、安心なサービスが始まったと喜んでいると、思いもしないネット依存の引き金になりかねない。

就学前の幼児が、スマホを離さないという相談もある。スイスイ操作していると喜ぶ保護者もおられる。しかし、今のネット上の情報は新聞記事とは違う。フェイクニュースと、訓練を受けた新聞記者の記事とを見極める力を育てるためにも、デジタルに偏った子育てになつてはいけない。

親が忙しくても、子どもに時間を割く。顔を見て会話をする。笑顔でその日の出来事を聞いてあげる。幼児期こそ、将来のトラブルを防ぐ大切な時期なのだから、5歳以下の幼児向けアプリがリリースされた今、アナログを忘れない取り組みを親として考えたい。